

NTTデータ

コミュニティクラウドによる信用金庫向け
融資統合システムの本格提供を開始

NTTデータは、従来、各信用金庫に個別に構築・設置していた「自己査定システム」「不動産担保評価システム」などを共同センターに集約設置するコミュニティクラウド形態の融資統合システムを、しんきん共同システム運営機構より受注・開発し、2010年9月よりパイロット提供を開始、2010年10月より本格的に提供を開始した。

これまで、融資業務で使用する情報システムは、各信用金庫が独自に構築・運用してきたが、本システムは、現在244の信用金庫が利用する勘定系共同利用センターである「しんきん共同システム」のサブシステムとして提供される。これにより、勘定系システムとの連携強化による事務効率の向上、共同利用によるシステムコスト削減が可能になる。機能面においても、戦略業務に位置づけられる融資業務において十分な成果を発揮できる機能を搭載している。

本システムは「自己査定」「信用格付」「不動産担保評価」「財務管理」等で構成されており、不動産担保評価では、NTTデータが提供するクラウドサービス「BizXaaSプラットフォームサービス」のアプリケーションメニューの1つであるSaaS型サービス提供プラットフォーム「MaDoRE」を活用している。MaDoREが提供する住宅地図や地価情報などの位置情報コンテンツと業務アプリケーションを連携させることで、高度な不動産担保評価機能を提供すると共に、コスト削減も可能になる。

今後は、2010年度末までに約100金庫、2011年度末までに約180金庫への導入を目指していく。融資統合システムの機能については、まずSTEP2として「各種リスク（市場リスク、信用リスク）管理」機能の提供とそれによる「財務管理、金融庁・日銀報告」機能の強化を行い、STEP3として「融資稟議」機能の提供を2011年度内に予定している。

(株)NTTデータ

URL : <http://www.nttdata.co.jp/release/2010/100600.html>

NTT-AT

羽田D滑走路の動態監視に
NTTグループの光計測システムを採用

NTTアドバンステクノロジー（NTT-AT）は、NTTインフラネットと共に提供した光ファイバーセンサーを利用した「光計測システム」が、2010年10月に運用を開始した東京国際空港（羽田空港）のD滑走路のモニタリングシステムに採用されたことを発表した。本光計測システムは、従来から活用されてきた電気計測や目視点検に加え、同滑走路の点検、診断等に活用される予定だ。

羽田空港は、国内航空旅客のうち約60%が利用する国内最大の空港だが、今後の航空需要の増大を見込み、航空機の発着能力を増強し、利用者の利便性を向上するために、新たに4本目の滑走路となるD滑走路を整備した。同滑走路は現在の空港の沖合、多摩川河口付近の海上に埋立工法と栈橋工法を組み合わせ建設された国内初の海上空港で、滑走路の途中で栈橋部と埋立部が接続する異種構造体である。また、埋立部は地盤改良等により沈下量を最小限に抑える設計となっているが、埋立部と栈橋部の接続部の段差は避けられない構造のため、今後の地盤沈下による滑走路の段差を適宜補修していく。また、航空機の基本操縦の中で滑走路を使用する離着陸は最も難しい技術であり、離着陸時の高速走行（大型機では時速約300kmに達する）でも機体の揺れが抑えられるように、滑走路表面の凹凸を極めて少なくする必要がある。

このような状況を踏まえ、航空機の安心・安全な運航や空港施設の長期的な安定性を確保するためには、滑走路の劣化状況の変化を確実に検知することや、沈下の状況を長期的にモニタリングする必要がある。その方策として採用されたのが、NTT-ATとNTTインフラネットが提案した光計測システムである。本システムは、光ファイバーに入射した光の反射波や周波数がひずみ量によって変化する光ファイバーセンサーを利用したシステムである。

NTTアドバンステクノロジー(株) TEL : 03-5325-0707

三菱化学メディエンスの ラボ情報管理システムを構築

伊藤忠テクノソリューションズのグループ会社で、製薬・化学・食品業界向けにシステム提供を行うシーティーシー・ラボラトリーシステムズ（CTCLS）は、三菱化学メディエンスの志村事業所におけるGLP準拠施設の信頼性向上と規制対応強化を目的としたラボ情報管理システム（LIMS）を受注し、米国STARLIMS社のSTARLIMS V10およびSTARLIMS SDMSを用いたLIMSを構築した。三菱化学メディエンスでは、2010年2月より、同施設で本LIMSの運用を開始している。なおCTCLSは、2010年3月に、更なる分析業務の効率化を目指す三菱化学メディエンスより、第2期として本LIMSの機能拡張プロジェクトを受注した。

LIMSは、分析ラボで行われる試料の管理・各種分析情報の記録・分析結果の判定・報告書の作成などの各種業務を管理するシステムで、三菱化学メディエンスの医薬品開発支援業務を行う同施設での薬物濃度分析業務のマネジメントをサポートしている。

生体試料中の薬物濃度分析業務では、受領した測定試料の管理など、従来のLIMS製品の適用が難しい非定型業務が多くある。しかし、CTCLSが開発した本システムは、WebベースのLIMSであるSTARLIMS V10と、分析機器から出力される結果ファイルやLIMSに関連する文書からデータを抽出して管理するSTARLIMS SDMSを組み合わせることで、非定型業務を含む薬物濃度分析業務全般のサポートを実現した。これにより、三菱化学メディエンスは、同施設の信頼性向上と規制対応への強化を実現し、業務全般の効率化が可能となった。

またCTCLSは、STARLIMS製品の専任組織を強化しており、国内製薬企業の品質管理部門や、臨床検査、受託分析会社など、生体試料中の薬物濃度分析を行う部門を対象として、積極的に販売を展開していく。

シーティーシー・ラボラトリーシステムズ(株)
TEL : 03-5712-8463

秋田県横手市の全33小中学校で 教育関連データを利活用できるIT環境を構築

ネットワークシステムズとEMCジャパンは、セキュアなファイルサーバ環境構築を目的に、秋田県横手市教育委員会が中心となって進める同市内の全33小中学校のIT環境整備において、両社のソリューションが採用され、利用者の利便性を損なうことなく、教育関連データをより効率よく安全に管理すると同時に、運用管理コストの削減を実現したことを発表した。

今回の新システムは、提案から導入・構築支援、保守をネットワークシステムズが担当した。従来は、各校ごとに設置され属人的に運用管理されていた複数のファイルサーバを統合するために、ネットワークシステムズは、まずは、データの重要度や利用頻度を可視化するEMCジャパンの「ファイルサーバ・アセスメント・サービス」を採用した。同サービスの評価をもとに、全校のファイル共有サーバをEMCジャパンの統合ネットワーク・ストレージ「Celerra NS-480」に集約し、透過的なファイル移動とアーカイブを実現するEMCジャパンのアクティブ・アーカイブ・アプライアンス「File Management Appliance」を導入した。

ヴェイムウェアのサーバ仮想化ソフトウェア「VMware vSphere」によってブレードサーバ上に仮想環境が構築され、ディレクトリ・サーバやウィルス対策サーバ、クライアント管理サーバなど計8つのシステムを実装した。

また今回の取組みの一環として、教職員にはノート型PCが配布されたが、そのノート型PCに、USBトークンによる個人認証とパスワードによる二要素認証に加えて、ハードディスクの暗号化を導入し、セキュリティを強化した。

この新システムは、2010年4月より本格運用を開始している。

ネットワークシステムズ(株) E-mail : media@netone.co.jp
EMCジャパン(株) E-mail : japanpr@emc.com

NEC

羽田空港・新国際線旅客ターミナルへ
情報通信システムとデジタルサイネージを納入

NECは、羽田空港の新国際線旅客ターミナル運営の中核となる情報通信システムとデジタルサイネージシステムを納入した。納入したシステムの概要は次のとおり。

◆旅客向けインフォメーションディスプレイシステム (IDS) とデジタルサイネージ：IDSは、約450台のディスプレイを使用して旅客ターミナルビルを利用する旅客に、航空機の運航情報（出発、到着、遅れ等の情報）、交通情報（道路渋滞情報、バス運行情報、鉄道運行情報）、案内メッセージ、気象情報等をタイムリーに提供するシステム。デジタルサイネージは、ターミナル内において、各階のフロアレイアウトやショップ・レストラン情報、イベント情報等を約20台の65インチディスプレイなどに表示して旅客へ提供するシステム。特に到着ロビーの観光情報センターには、観光情報やテレビ放送を表示する4面マルチディスプレイ（46インチ×4）を設置した。

◆空港職員向けTIATインフォメーションマネジメントシステム (TIMS)：ビル会社、委託先事業者および航空会社の社員向けに、空港運営に必要な各種情報を集約や一元管理して業務の効率化を図るシステム。

◆商業施設関係者および空港職員向け業務管理システム：業務管理システムは、流通サービス管理サブシステム、事業計画管理サブシステム、および財務会計サブシステムの3つのサブシステムで構成されている。流通サービス管理サブシステムは、店舗に設置されるPOS端末と連携し、空港商業施設内のスムーズな販売業務をサポート。経営に関わるデータの分析やレポート作成が可能なBIツール機能を持つ事業計画管理サブシステムは、流通サービス管理サブシステムから取得される売上データも活用し、経理業務の中核となる財務会計サブシステムとともに、システム間で密接に連携することで、空港経営を効率的にサポートする。

NEC IDS、TIMS、業務システム TEL：03-3798-6636
デジタルサイネージ TEL：03-3798-9479

OKI

羽田空港・新国際線旅客ターミナルへ
情報KIOSK端末「SUKIT」を40台納入

OKIは、航空会社各社の国際線の搭乗手続きを1台の端末で行う情報KIOSK端末「SUKIT」を羽田空港の新国際線旅客ターミナルビルに40台納入した。

東京国際空港ターミナル（以下、TIAT）では、アジアのハブ空港を目指し、年間約9千万人の旅客利用を見込む日本を代表する空の玄関口として、羽田空港に新国際線旅客ターミナルビルを開設した。この開設に伴い、お客様の利便性向上を目指し様々な検討を行い、お客様利便性向上の手段として長い時間待つことなくスムーズなチェックインを実現する共通チェックイン機として、OKIのSUKITを採用した。SUKITは、ATM（現金自動預け払い機）をはじめとした航空会社のセルフチェックイン機、鉄道の予約発券機等の実績をもとに、その技術・ノウハウを活かした情報KIOSK端末である。操作に必要な全てのデバイスを利用者の正面に集め、ランプによる操作ガイダンスを行うなど、操作性に優れている。TIATでは、国際線のチェックインに必要なパスポートリーダーや2次元バーコードリーダー、搭乗券プリンタ等の豊富なデバイスを備えていることに加え、操作性の良さやデザイン面での配慮等を高く評価し、採用を決定した。

今回、新国際線旅客ターミナルビル3階の「チェックインカウンター」に設置されたSUKITは、1台の端末で、各社のチェックインが可能だ。利用可能な航空会社は、全日本空輸（ANA）、日本航空（JAL）の他、TIATへ就航する海外のエアライン数社。同ターミナルを利用されるお客様は、空いているSUKITを利用することにより、航空各社のホームページや旅行会社等で予約した情報をもとに、マイレージカードや2次元バーコードとパスポートをかざすだけで、簡単に搭乗手続きを行うことができるなど、チェックイン時の利便性が大幅に向上された。

OKI 統括営業本部 法人営業本部 営業第一部
営業第一チーム TEL：03-5445-6304

セキュアブレイン

KDDIウェブコミュニケーションズが「gredセキュリティサービス」を採用

セキュアブレインの企業向けSaaS型セキュリティソリューション「gredセキュリティサービス」が、KDDIウェブコミュニケーションズが提供するホスティングブランド「CPI」において、レンタルサーバ利用者のWeb改ざん対策として採用された。本サービスのKDDIウェブコミュニケーションズでのサービス名は「マルウェア診断」である。

マルウェア診断は、定期的にWebサイトの不正改ざんの有無を確認するセキュリティサービスである。不正な改ざんを検知すると、管理者にアラートメールの配信と詳細レポートの提供を行う。本サービスは、Webサイトのコンテンツやリンク先等複数の要素を解析するので、「ガンブラー（Gumblar）」のように、従来の対策では検知が難しい攻撃による、Webサイトの改ざんも検知が可能だ。KDDIウェブコミュニケーションズは、CPIのレンタルサーバを利用するユーザーのWebサイトの改ざん対策を目的とし、マルウェア診断をオプション提供している。

◆マルウェア診断のサービスの特長：1日1回、Webサイトのコンテンツを解析/不正な改ざん検知時に管理者にアラートメールを配信/解析結果を定期レポートで報告/改ざんページ、改ざん手法に関する詳細レポートを提供/改ざんページを安全なページ（メンテナンス中画面）に自動切り替え/gredセキュリティサービスで監視している、安全なWebサイトであることを証明する「gred証明書」を発行/「クロスドメインスクリプト」（別ドメインのスクリプトを実行する仕掛け）が見つかった場合に、アラートメールを配信。

サービス提供価格（税込）は、解析対象ページ100ページまで（登録URL：5URL、5ドメインまで）で、初期費用：3,150円、月額費用：3,150円～。

（株）セキュアブレイン E-mail：info@securebrain.co.jp

オーシャンブリッジ

Officeファイル&JPEGファイル圧縮ソフトをソフトバンクBBが1,500ライセンス導入

海外製ソフトウェアをベースとした事業開発を専門とするオーシャンブリッジは、同社のOfficeファイル&デジタル写真圧縮ソフト「NXPowerLite」が、ソフトバンクBBのコマース&サービス統括に1,500ライセンス導入されたことを発表した。

ソフトバンクBBがNXPowerLiteの導入を決めた理由は次のとおり。

- NXPowerLiteを導入してデータ容量を削減することでサーバ増設費用を大幅に削減できること
- iPhone・iPadにメールで送信する添付ファイルの容量を圧縮することで、より短時間での受信と効率的な処理が可能となり、iPhone・iPadを一層ビジネスで活用できるようになること

サーバ増設費用の削減に関して、同社コマース&サービス統括 CP事業推進本部 東日本営業統括部 統括部長の菅野信義氏は「サーバ、ストレージ自体の価格は下がってきています。サーバの仮想化技術も進化しています。しかし、年々増加するデータ容量に対応するためにサーバやストレージを『増やす』という方向性は変わりません。一方でNXPowerLiteはそもそものデータ容量を『減らす』アプローチです。根本の部分を解決することができます」と語っている。また、クラウド活用においても「例えばクラウドのバックアップサービスは今後一般的になってくると思いますが、おそらく基本スタンスは『ファイル容量に応じた従量課金』です。NXPowerLiteでデータ容量を削減しておくことで、無駄なお金を払うことを避けられます」と、メリットが大きいと語っている。

またオーシャンブリッジは、ソフトバンクBBとのパートナーシップをさらに強固にしていきたいと語っている。

（株）オーシャンブリッジ TEL：03-5464-2112